

競馬がますます
楽しくなる

続 ファンにやさしい

馬学講座

第 58 回

「頭(首)の高い」走法はよくない？

講師

松山康久さん
元JRA所属調教師



案内人：辻谷秋人
text by Akihito Tsujiya

一概にそうとは言えず
馬の個性と考えるべき

前号に引き続き、今回も三冠馬ミスターシービーなどを育てた伯楽・松山康久元調教師にお話を伺っていく。

11月号では「背中が硬い」という表現をキーワードにして、馬が走るときに背中が果たしている役割について伺った。馬が速く走るためにストライドを伸ばそうとするとき、背中を使って前後方向に体を動かすことが重要になるのだ。

これに関連して言われることが多いのが、「頭の高い走法はよくない」ということである。首が低い位置(つまり前方)まで伸びる馬は、体全体を使って前後方向に動いているように感じられるが、頭の高い馬は前に向かう力が弱いように見える。力を有効に使っていないように思われるのだ。

「馬は静止しているとき、常歩、速歩、駈歩、襲歩、そしてトップスピードで走るときで、それぞれ段階的に頭の高さは変わります。馬のなかには運動時、特に

トップスピード時に頭が必要以上に高くなるものもありますが、それらのすべてがダメというわけではありません。例えばコブラが獲物に襲いかかるとき、鎌首をもたげて素早く動きますが、頭の高い走法にはそれに通ずるものがあると私は考えています。シービークロスやウィナーズサークルも高くなりましたし、それら

ひとつの個性と考えるべきでしょう。それよりも、と松山さんは続ける。頭が低ければいいというものではない、というのだ。

「問題なのは、ハミ(馬銜)にもたれる馬ですね。ハミにぶら下がるように走る馬がいるんです。そういう走り方ですから頭の位置は自然と低くなるのですが、実際にはほとんど動いていないんです」

ハミは人が馬に指示を出す上で
もっとも重要な手段である

ということ、ここからはハミの話へ移っていく。

ハミに関しては、競馬の世界ならではの独特な表現がたくさんある。人が馬を

走らせる上でハミはたいへん重要なものであることを、その事實は示している。だが、実は一般の競馬ファンにとっては、ハミやその周辺のことはいくらもわかりにくいものでもある。

そこで、松山さんにハミ周りの用語についての話を聞く前に、ごく簡単にハミについて説明しておこう。

ハミは馬が口に咥える金属製の棒で、その両端は騎手の持つ手綱と繋がっている。騎手はこのハミを通して馬への指示を与えることになる。……というところは、多くの競馬ファンがご存じだろう。

では、ハミは口の中をどう通っていて、どうして馬に騎手の指示を伝えることができるのだろうか。

馬の前歯(切歯)と奥歯(臼歯)の間には、歯が生えていない歯槽間縁と呼ばれる部分がある。ちょうど上下の歯によってできたトンネルのようになっていたのだが、ハミはここを通す。そのためにハミを咥えていても、ちゃんと口を閉じることができるのだ。

ハミは口の中では舌の上にあるが、騎手が手綱を引くことで、ハミにその力が

伝わり、舌や歯茎、奥歯、それに口角(口の端)が刺激される。そうした部分はとても敏感なので、さほど大きな力でなくとも刺激が与えられる。それによって指示を出すわけだ。

馬に対する指示はハミがすべてではなく、騎手の手や足の動き、それに声でも出されるが、それでもハミがもっとも重要な手段であることは間違いない。

これを踏まえて、次号ではハミに関する競馬用語を覚えていただくことにする。

JRA



「最近の活躍馬ではヤングマンパワーはかなり頭が高いですが走っています」と松山さん。馬が速く走ろうとする動きを阻害しなければ、一概に頭が高いことでネガティブな印象を持たなくても良さそうである